

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書2章1～21節＞  
三つの場面の展開で記されたクリスマスの出来事から見えて来ること。

### 1 (1-7) この世界の姿 — 神様抜きに人間が作り出す世界

ルカはイエス様がお生まれになった時の世界の様子から語り出します。それは読む者に「大変だったな」と思わせる内容です。マリアの出産が間近な中で、当時の支配者の命令で旅立たねばならず、泊まる宿も確保できず、家畜小屋の飼葉桶の中で生まれられたからです。力ある者によって貧しい弱い者が翻弄される、まさに今の世にも通じる世界の様子です。ここに神様の存在は感じられません。おられないのではなく、神様抜きで人間が作り出している世界だからです。

### 2 (8-14) その世界への神様の介入 — 喜びを与えるために

8節から場面が一転します。ありふれた世界の姿を記した内容から、突然、お話の世界に飛び込んだような気がします。それはあまりに神無しの世界にそれまでいたからです。その世界に神様が介入されて来たのです。何のために神様は天使たちを遣わして介入されて来たのでしょうか。8節以下から知らされる内容は、「栄光、恐れるな、大きな喜び、救い主」とただただ恵みの内容です(14節「御心に適う人にあれ」の部分は「人々の中に喜びあれ」が真意に近い。すなわち、「全ての人に」向けられている)。前段落の神無しで殺伐とした世界を見かねて神様が救いの手を差し伸べられた。そう思える二つ目の段落です。お話の世界に思えた世界の方が本当の世界、あるべき世界ではないでしょうか。

### 3 (15-21) その神様にどう応えるか — 羊飼いと二人の姿に倣おう！

羊飼いたちは天使が告げたことに従います。そして告げられた通りの光景を見て神様を崇めて讚美しながら帰り(20)人々に知らせました(17)。どうしてこんな光景に満足できたのでしょうか。彼らは普通の時に値打ちありとするものとは全然違う幸いを告げられ、それを信じてやって来て告げられた光景を目にしたからです。ヨセフとマリアも同じです。イエス様が生まれて8日目に割礼を施したことは、先祖から聞いて来た神様、私たちがどんなに罪深くても見放すことはなさない神様を信じて歩み始めていることを示しています。そして、この神様の破格の恵みは全ての人に、私たちにも向けられているのです(14b)。あとは私たちそれぞれがそれをどう受けとめて歩むかです。羊飼いたちやヨセフとマリアが歩んだこの神様を信じて歩む道を歩もうではありませんか！